

雲井龍雄 うゑいりゆう 米澤藩士、漢詩人。天保十五年二月二十五日出羽國米澤生れ、明治二年十一月二十八日歿（二八四一七〇）。米澤藩士中島惣右衛門次男、萬延元年同藩士中島才助の養子となる。諱守善、字吾真、幼名猪吉、通稱龍藏、權六、龍二郎。變名一木縁、桂香逸、湖海依徒、遠山翠。慶應元年江戸詣となり、安井息軒の門に入る。一年半後歸郷、二年藩命により天下形勢を探る任に當り、雲井龍雄の變名を以て時哥といふ事。平定後藩黨興讓館助教に擧げられた。明治二年建議院寄宿生（議員）となるを程なく退院を命ぜられ、翌年政府轉渡陰謀を理由に小塚原で暴首。龍雄の作として有名な「棄兒行」は、郷土の詩人原正弘が實作者といふ。

『雲井龍雄全集』の他、菊亭静秋贈『雲井龍雄之傳』（明治十九年五月）秋亭實著絶『雲井龍雄と澤大俊』（昭和五年六月）
 『十八日私家版』、高木藤太郎著『龍雄遺骨移葬の顛末』（昭和七年四月）
 『二十八日私家版』、高橋力著『註解雲井龍雄詩集』（昭和十二年三月）
 『二十五日山形・龍雄宣揚會』（等）がある。

